

優秀賞

## 祖父の口癖

岐阜県 岐阜県立飛騨神岡高等学校一年 中島 聖音

「俺が生まれた時は空が真っ赤に染まっとった。食べる物も無く、毎日ひもじい思いをしとった。戦争だけは二度とやったらいかんよ。」

毎年稲刈りの時期になると祖父は、黄金色の大きな田んぼの前で言っていた。小さい頃の私はその言葉に込められている意味を深く考えることはなかった。戦争について祖父に聞くこともしなかった。

私は畑にいる祖父が大好きだった。野菜についてなんでも教えてくれるからだ。

「飛騨は水もきれいで、野菜もよく育つ。今、何不自由なく食事ができていることに感謝せんといかんよ。」

いつもも言っていた。だからこそ祖父に私が一番叱られたことは、夕食の時嫌いな人参を残して、

「これ、いらない。」

と言った時だった。でも祖父は一回強く叱った後に悲しいような切ないような顔をしていたことをよく覚えている。まだ幼かった私は、叱られたことに対してただ泣きじゃくった。反省するどころか、どうしてそんなに叱る

のか疑問に思ったくらいだった。それでも祖父は私に言い続けた。

「不自由なくご飯が食べられることに感謝しなさい。」

そして、泣きじゃくる私の頭を大きな手で撫でてくれる。怖いけれどこんなに優しい祖父が大好きだった。

少し大きくなって小学校に入学するとき祖父と離れて暮らすことになった。会うのは半年に一度になった。会いに行くとき必ずあたたかい笑顔で抱きしめてくれる祖父が大好きだった。やっぱり野菜のことを熱弁してくれる。

夏休みに祖父の家に泊まりに行った。その夜に手持ち花火をしていた時だった。祖父は不意に、

「これからどんなに辛い事があっても人に当たってはいいかん。自分自身の芯を持たないかん。最後に物事を解決するのに大事なものは、自分を信じることだよ。」

と私の目を真直ぐ見つめて言った。私は正直びっくりした。真剣な眼差しで語り掛けてきたからだ。後から気づいたことだが、あの日は終戦記念日であった。祖父は、

昭和、平成、令和、三つの時代を生き抜いてきたのだ。

戦争中は物資もなく経済的にも精神的にも、不安に襲われたりして苦労があったことだろう。当然、戦争は祖父の行動や意識に影響を与えているはずだ。そんな祖父の言葉の背景には、特に終戦の不甲斐なさの実感がある。祖父の口癖の言葉には魂があり重みがあると感じた。だからその時初めて戦争についてしっかり向き合ってみて考えなければいけないと思った。しかし祖父に戦争のことを聞くことはしなかった。また、この時、この日が祖父の家に泊まる最後の日になるとは考えもしなかった。

中学生になった。入学式の日にはセーラー服姿を見てもらいたくて祖父の家を訪れた。祖母と一緒に、晴れ晴れした笑顔で喜んでくれた。祖母のガラケーの待ち受け画面を見て、

「さどねの小学校入学の時は、こんなに小さかったのに大きくなったねえ。」

と言ってくれて本当に嬉しかった。やっぱり祖父は野菜について熱弁してくれる。優しい声と優しい笑顔で話してくれる祖父が大好きだった。私は野菜の話の聞くといつももつこの時間が続けばいいのと思った。

昨年の夏休み祖父の家を訪れた。その日、祖父と田んぼに行った。

「昔ご飯のことで叱ったこと覚えてるか。この一本一本の稲のように強く優しく生きるんだよ。」



「うん。」

としか答えることが出来なかった。

「俺が生まれた時は空が真っ赤に染まっとった。食べるものもなく毎日ひもじい思いをしとった。戦争だけは二度としてはいかんよ。」

祖父はまるでタイムマシンに乗って当時へいったように感慨深げに話していた。祖父から聞いた最後の言葉も、いつもと同じあの言葉だった。

祖父は、昨年の秋に亡くなった。いつも絶対に弱音を吐かない祖父がその日だけは、

「疲れたでもう寝る。」

と言ったきりもう起きてこなかったそうだ。私はその話を祖母から聞いたとき心に大きな穴が空いたような気がした。涙が込み上げてきた。いつかと同じように泣きじやくった。でもあの時のように大きな手で優しく頭を撫でられる事はなかった。

少し時が経ち、私は高校生になった。本当は祖父にも新しい制服を着ているところを見せてあげたかった。私は祖父の言葉をずっと大切にしている。強く優しく正しいと思っただ事は、自分を信じて筋を通していく。また、いろんな事に挑戦し続けて生きていく。

私は祖父に戦争についてもっと聞かなかったことを後悔している。でも、祖父の口癖は、「二度と戦争をしてはいけない」という意識を持つことが大事だということ。

ご飯が食べられる幸せを噛みしめること。自分を信じて何事にも挑戦すること」を伝えたかったのだと思う。私は、これからも祖父のこの言葉を心の支えとしながら、平和な世界に、日本にすることを目標に生きていく。人生の「心の杖」を授けてくれた優しくしてあたたかい祖父に感謝したい。ありがとう。